



南会津町立館岩中学校 学校通信

館中たより

【学校教育目標】

自立

第28号 平成30年11月30日 発行 文責 校長

館岩地区幼小中連携授業研究を行いました。



11月29日(木) 館岩小学校を会場に今年度第2回目の幼小中連携授業研究会が行われました。幼小中の先生方が一同に会し小学生の授業を参観しました。

参観後、生徒指導部会、学習指導部会に分かれグループごとに話し合いが行われました。家庭学習の仕方やSNS等の利用の仕方などで注意すべきことなど話し合いました。

ブリティシュ・ヒルズ英語研修



11月26日(月) から1・3年生は1日、2年生は1泊2日の日程で天栄村にあるブリティシュ・ヒルズに英語研修に行ってきました。

外国人の先生からのレッスンの説明はすべて英語で、質問や答えも英語でやりとりがなされ、研修期間英語に接する機会がたくさんありました。

3年生はブリティシュ・ヒルズの研修が最後になりますが、「また、来たい。」という感想も聞かれ、充実した機会となりました。

英語ライブ授業



11月28日(水)、今年度最後の英語ライブ授業がありました。県教育委員会の先生、南会津教育事務所の先生が来校され、授業の様子を参観されました。

今回はネイティブの先生も参加され、子供たちは、画面でやりとりするブリティシュ・ヒルズの先生、本校AETのジョン先生、英語担当の先生の計4人によるライブ授業を受けました。

画面から流れてくる先生の質問に対して、生徒たちはリアルタイムで積極的に答え、わからないときは身近にいる先生に聞いて、英会話を楽しんで学習していました。

来週、保護者会が行われます

来週12月6日(木)に保護者会、学校保健委員会が開かれます。今回は授業参観はありませんが、学校保健委員会では福島大学の佐藤先生を招き、「大切な私、大切なあなた、～自分らしく生きるために～」をテーマに講演会が行われます。ストレスマネジメント、人間関係、自己肯定感を高める方法について学ぶことができます。ぜひ、お子さんと一緒にご参加いただきたいと思います。お忙しい中とは存じますがよろしくお願いします。

南会津町中高生海外交流事業活動報告書完成 (Part 2)

今週号はHさんの海外交流事業活動報告書です。ご覧ください。

私が今回の海外交流事業で目標としていたことは、2つありました。



1つ目は、食文化に触れることです。私がホームステイで訪ねた先では、主に、朝食はトースト、昼食ではサンドイッチやクラッカー、夕食では外食やトーストなどでした。私は普段、あまり洋食を食べないので、フォークやナイフを使う時は、食べ物を上手く口まで運ぶことができませんでした。それでも、家族の方々と楽しく会話をしながら食事をすることができました。家族全員揃って食事を取ることの必要性や、使い慣れていない食器を使うことの大切さを実感しました。食事はコミュニケーションをとる場の1つだと考えます。これらの体験を通して、家族や友達と楽しく会話をしながら食事をとることを心掛けたいと思います。

2つ目は、オーストラリアの学校で日本と異なる部分を発見することです。まず、大きな違いとして捉えたことは、部活動の有無です。オーストラリアでは、毎週木曜日にスポーツデーといい、地区の子供達が集まってスポーツをする日があります。私が今回通った学校では、部活動は無く3時頃に下校という形でした。ホームステイ先の家族に日本での学校生活について話したら、驚いた表情をしていました。また、「そんなに体を動かしていたら毎日疲れてしまうね」などと言われました。私が現在通っている学校は、放課後4時15分から5時まで駅伝練習、5時から6時まで常設部の部活が行われます。これらの活動はオーストラリアには無いので、帰宅後家族の方々と楽しく遊ぶことができました。そして、スポーツデーに友達同士が仲良くスポーツを行っている姿を見て、楽しく技術を競い合う大切さを改めて感じました。次に、授業内容についてです。ある友達が、数学の時間に問題を教えてくれた際教科書がありませんでした。数学では、先生が問題を出題し、それについて生徒がノートに問題を解いたり、重要なことを先生がボードに書き、それを生徒が板書するという時間でした。他のいくつかの教科にも、教科書がないことに驚きました。様々な違いがある中、唯一同じだったことは、バス通学です。私は毎日、バスで学校に通っています。今回通った学校では、歩いて通学する人、車やバスで通学する人など、様々な交通手段で登下校していました。私は、オーストラリアの家族から、バスに乗車するためのカードをもらいました。登校時は車で送ってもらい、下校時はバスで帰りました。オーストラリアでのバス通学も体験することができました。

この2つの目標について学ぶことができ、とても良い体験になりました。そして、言語が異なる人々でも、親しく接することができるということを改めて感じました。これらの体験を基に、スムーズに英会話ができるようになりたいです。また、これから先、国境を越え、たくさんの人々と関わりを持ちたいです。